

平 成 20 年 度

新潟県放射線監視センター年報

第 7 卷

平 成 21 年 12 月

新潟県放射線監視センター

は じ め に

このほど、平成20年度の業務及び調査研究の成果をとりまとめ、新潟県放射線監視センター年報第7巻として発刊しましたので、ここにお届けをいたします。

当センターは、昭和45年の衛生研究所における放射能調査の開始以来、組織の変遷はありましたが、本所を新潟市に置いて、東京電力株式会社柏崎刈羽原子力発電所周辺地域の環境放射線監視調査を実施してまいりました。

平成19年7月16日に発生した新潟県中越沖地震では、柏崎市と刈羽村を中心に甚大な被害が発生し、柏崎刈羽原子力発電所からは極微量とはいえ人工放射性物質が環境中に放出されました。当センターでは監視を強化し、他部局職員の応援も得て、現地の柏崎刈羽放射線監視センターにおいて24時間体制でモニタリングを実施しました。調査結果からは原子力発電所からの放射能影響は認められませんでした。初めて経験した自然災害の下でのモニタリング強化は多くの教訓をもたらしました。

新潟県では、複合災害時の対応について中越沖地震以前から検討を開始していましたが、この度の経験を踏まえ、地域防災計画（原子力災害対策編）及び環境放射線監視調査基本計画を見直し、大規模自然災害時の対応を明確化するとともに、監視体制の強化と発災時の初動対応の迅速化を図るため、平成20年4月から放射線監視センターの本所機能を柏崎市に移転しました。これに伴い、これまでの本所は新潟分室となり、柏崎刈羽放射線監視センターは本所機能を持った放射線監視センターとして、新たな体制の下で業務を行っております。

当センターの責務は、環境放射線監視調査を着実に実施するとともに、正確な監視情報を速やかに県民の皆様にお届けすることにあります。中越沖地震以後運転を停止していた発電所は、6、7号機が起動試験を開始し、営業運転への移行が目前となっています。引き続き他号機も復旧作業が進んでおり、当センターでは注意深く監視を行っています。

本書は新たな体制の下での業務を取りまとめた最初の年報です。ご高覧のうえ、皆様の忌憚のないご意見、ご教示をいただければ幸いです。

平成21年12月

新潟県放射線監視センター所長

山 崎 興 樹

目次

I 業務報告編

1	運 営	3
1・1	沿 革	3
1・2	施設・設備の概要	3
1・3	組 織	6
1・4	予算・決算	7
1・5	主 要 備 品	7
1・6	行 事	8
1・7	外部委員会等への参画	10
2	業務概要	11
2・1	柏崎刈羽原子力発電所周辺環境放射線監視調査	11
2・2	環境放射能水準調査	12
2・3	調査研究業務	12
2・4	その他の業務	15

II 研究報告編

1	研究報告	17
	【研究報告】	
1)	指標線量率によるモニタリングポスト近傍に持ち込まれた人工放射線源の検知	19
	黒崎 裕人・霜鳥 達雄・藤巻 廣司・山崎 興樹	
2)	時間間隔解析を用いたダストモニタリング	23
	石山 央存・山崎 興樹	
3)	柏崎を含む新潟県沿岸周辺の魚介類の ¹³⁷ Cs濃度	33
	石山 央存・小林 正・笠原 貢	
4)	柏崎刈羽地域における食品摂取に伴う線量調査	40
	石山 央存・笠原 貢・霜鳥 達雄・山崎 興樹	
	【技術報告】	
1)	モニタリングポスト発電所南局、北局の整備	54
	黒崎 裕人・石山 央存・春日 俊信・藤巻 廣司・山崎 興樹	
2)	可搬型モニタリングポストの概要	59
	石山 央存・土田 智宏・藤巻 廣司	
3)	局舎内の合板からのトリチウム発生事例	68
	春日 俊信・霜鳥 達雄・土田 智宏	
2	他誌発表	73
3	学会等発表	74

III 資料編

新潟県放射線監視センター年報	研究報告編投稿規程	77
新潟県放射線監視センター年報	研究報告編執筆要領	78